

かけはし

第11号 平成5年9月24日発行

発行 千代田区教育委員会



乙女峠での昼食（千代田九段小）

〈楽しかった夏休みの生活特集〉

—自分で考え 進んで行動—

主
な
記
事

- 夏休みの作品展から
- 五城目町とのスポーツ交流
- 東京・ニューヨーク親善少年野球大会
- 地域活動に参加 ○子ども体験教室
- 物づくり教室 ○幼稚園夏季保育
- 小・中学校夏季施設

今年の箱根は天候が悪く、山登りは第3日に延期して実施しました。

長尾峠から丸岳、乙女峠への道筋は、晴れたかと思うと、すぐに霧に閉ざされてしまいました。

乙女峠で弁当を開いたとき、わずかな時間ですが、富士山が姿を見せ、私たちにほほ笑んでくれたようでした。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

夏休みの生活 進んで行動

今年の夏休みは、例年になく天候の悪い日が続きました。長雨・低温の上、夏休み早々からの台風の影響となり、幼稚園の夏季保育、小・中学校の水泳指導・臨海学園・高原学校等に影響が出てしまいました。本当に夏らしい暑さが訪れたのは、休みも終わりに近い八月下旬になってからでした。

それでも、子供たちは長期休業中にしかできない様々な体験を積み、一段と成長しています。区内の幼稚園、小・中学校の子供たちは、例年実施される夏季行事は勿論、各地域で行われた活動に進んで参加したり、秋田県五城目町とのミニバスケットボール大会や、ニューヨーク少年野球チームとの親善試合などで活躍したりしていました。

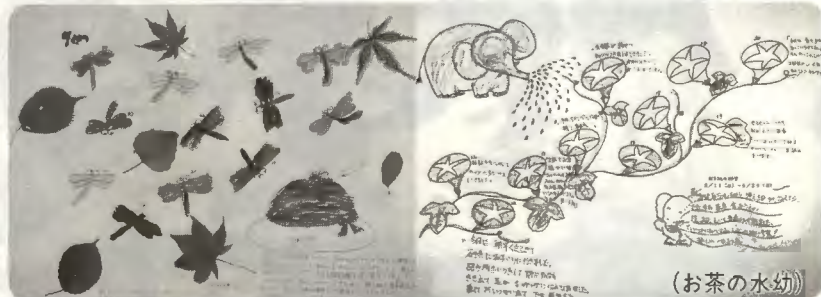
各学校(園)においては、夏休み後、保護者会が開かれ、夏休みの記録や作品を見ながら、子供たちの生活の変化や成長の姿について話し合われました。この夏休みの体験が、子供たちの今後の学校・家庭・地域での生活に生きるように援助していきましょう。

夏休みの 作品展から

夏休み中の子供の活動の様子は、九月の夏季作品展からも伺い知ることが出来ます。

幼稚園では、特別に作品展を実施してはいませんが、園児の夏休みの生活記録からは、親子で元気に過ごした日々の様子が目に浮かんできます。

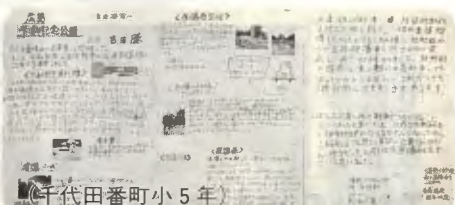
小学校一、二年生の絵日記からは、家族で過ごした楽しい思い出が溢れ出してくるようです。三、四年生の図工の作品には、何事にも積極的に取り組もうとする姿勢が表れています。また、五、六年生の自由研究には、計画・調査・考察・まとめ、地道な努力の成果がにじみ出ています。



(お茶の水幼)



(千代田番町小 11年)



(千代田番町小 5年)



(千代田番町小 3年)

中学生になると、目に見える作品の数は減りますが、様々な体験・学習が体内に蓄積され、今後の学習に生きてきます。



▲本を読んだ感想を絵に (今川中1年)

「夏休みが終わると、大部分の子供は、「今年の夏は遊びすぎたな。」と、反省をしながらも、個人的には、去年とは違った経験を積み、年毎に成長していることが分かります。作品展が終了して返されてきた作品の中から、何か一つでも保存しておくと、我が子の成長をはっきり捉えることができるでしょう。」

楽しかった 自分で考え

我が家の夏休み

笹島 繁

今年の夏は記録的な冷夏となり、暑さの戻った八月下旬には、既に朝夕の日差しには秋の気配が感じられ、本格的な暑さのない夏休みとなった。

我が家のこれまでの夏休みは、「早く起きなさい」「宿題はどうなっているの」「遊んではかりいてはダメ!」等々、子供の気持ちを汲み取ったり、考えを聞こうとしたりせず、常に親の一方的な考えで頭ごなしに指示し、無理やりに親のエゴを押し付けてきた。

今年は、妻とも相談して、いつもの夏休みとは違ったものにとしようと決めた。

「子供は未来からの使者である」との観点に立ち、子供に対して、あしなさいこうしなさいと指示するのではなく、親が子供の立場になって考え、悩み事に対しては、一緒に考え、相談にのるようにし、親子で充実した夏休みになろうと考え、親も勉強を開始した。妻は大学のスクーリングへ、私は子供達と一緒に遊び、体を動かすようにした。

子供達には、勉強のことは一切も言わず、「頑張れ」「良くやったね」と、ほめることを忘れないで……。

(千代田富士見小 P.T.A会長)

五城目町とのスポーツ交流

秋田でのバスケットボール交流

六年 鎌倉 好男

ぼくたちお茶の水小ドリームチームの五・六年生は、千代田区の姉妹都市である秋田県五城目町とのミニバスケットボールの交流試合に参加しました。この試合に勝つために、一生けんめいに基本練習をしたり、個々のポジションに分かれて練習試合をしたりしましたが、秋田はバスケットボールが盛んで強いといわれているので少し心配でした。いよいよ試合の朝です。みんなたつぷり朝食を食べ、気合いを入れてから体育館に行きました。

開会式をおえ、まずBチームの試合です。五城目小のパスの速さや、シュートをしているところを見て、ぼくたちよりもずっと上手だったのでびっくりしました。Bチームは気合いが入っていたし、ちゃんと練習してきたことを生かしたプレーをして勝ちました。ぼくたちAチームも全力をつくしました。残念ながら、残念ながら負けました。けれど、精いっぱい戦えたのでとてもすっきりしました。

この試合を通して五城目小のみなさんとも友達になることができ、小学校最後の夏休みにとてもよい思い出ができました。

(お茶の水小学校)



東京・ニューヨーク 親善少年野球大会

東京都と姉妹都市提携を結んでいるニューヨーク市から、少年野球チーム「フレンドシップ」が来日し、八月十二日(木)外濠公園総合グラウンドにおいて、「オール千代田」と対戦しました。



この大会は、姉妹都市提携二十周年を記念して始められたもので今年第十四回大会です。「オール千代田」のメンバーは、区内小学校から選ばれた十四名です。当日は快晴に恵まれ、熱戦が展開されましたが、残念ながら、11対3でフレンドシップに敗れてしまいました。



試合開始に先立ち、和服姿の子供達の琴、中学生のプラスバンドの演奏が披露され、選手と共に国際親善の一翼を担いました。

地域活動に参加

私達の生活する地域では、町会や子ども会、スポーツ・古典芸能・奉仕など、各種団体が日常的に活動を行っています。

夏休みには、これら日常活動の外に、ラジオ体操、プール開放、相撲大会、少年野球大会、子ども会、緑日、盆踊りなど様々な活動や行事が行われました。例年行われているこれら夏休みの活動や行事には、その地域の特徴・伝統が受け継がれています。

子供達は、これらの活動や行事に積極的に参加し、地域の大人と共に行動することにより、地域社会の一員としての自覚と行動力、奉仕の精神を身につけています。



▶大人も子供も一緒になって
(和泉町子ども緑日の夕べ)



◀校庭をいっぱい使って、
長縄連続とびに挑戦したり
どじょうつかみをしたりし
ました。

(麴町納涼子ども会)



▲本格的な土俵で、汗を流して
がんばりました。

(芳林公園・納涼相撲大会)

子ども体験教室

今年は四十三名の挑戦者たちが、都会を脱出して嬉々自然休養村でテントを張りました。三泊四日にわたって自炊しながらキャンプ生活を体験し、自然の雄大さや厳しさを肌で感じました。

サマーチャレンジに参加して

二年 高岡 愛

私は、七月二十一日から子ども体験教室のサマーチャレンジに参加しました。一番印象に残ったのは三日目で、川遊びが中心でした。各班ごとにバケツを一個持って生き物を取るというゲームをやりました。上流へ行くとき、私はわざと深そうな所へ入っていつたり、水をかけあつたりしました。小学生の子たちに水をかけると、

「フー」「ギャー」「ピー」と

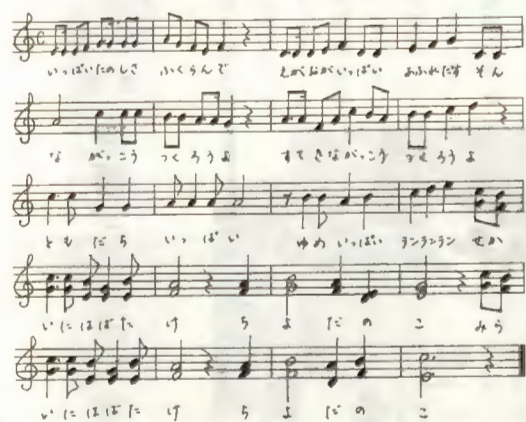
と大声をあげてはしゃいでいました。水はとても冷たかったのですが、大自

然とふれあう大変良い機会だったと思います。来年は受験ですが、参加できるプログラムには積極的に出たいと思います。

▼テントの外は真っ暗で とても静か—



千代田小学校のうた



わたしたちの 歌ができました

千代田小学校

新たな学校としてスタートした千代田小学校では、開校以来「友達いっぱい 夢いっぱい 世界にはばたけ 千代田の子」を合言葉に、児童が中心となり、学校づくりを進めてきました。

七月十二日には、全校児童による学校の誕生を祝う「千代田小お誕生集会」を開きました。

当日、みんなが親しめる歌として、「千代田小学校のうた」が、全員合唱によって紹介されました。歌詞は、四年生野本有紀さんの作品が選ばれました。作曲も児童から募集しましたが、一つにしほることが困難でしたので、よい部分を集め、音楽の小野里嘉子先生が編曲しました。

物づくり教室

土器づくり教室

五年 渡辺 詩文

私は四番町歴史民俗資料館の縄文土器づくりに、父と母と参加しました。



一回目は、形づくりをしました。輪づみ法といって、初めに円ばん状の底を作り、ねん土を輪状につみ上げていくやりかたです。お

ずかしかった所は、厚みを同じにすることです。私は上のほうがひろがつてしまい、先生に直してもらいました。

二回目は、みがきをしました。土器の内がわをけずってたいらにしてみました。

三回目は、焼きの作業で、千葉の加曽利貝塚に行きました。土器を焼いている間に、火おこしを習ったり、あけびのつるでリースを作ったり、縄文土器を使ったスープを飲んだりしました。私も、父の母の母も、こわれずに土器が焼き上がりました。けれど、ひびが入っていたり、欠けていたりしたので、少しがっかりしました。

土器づくりをやってみて、とてもおもしろかったけれど、ほかにもいろいろな体験ができてよかったと思います。

(千代田麴町小学校)



「いっばい楽しさぶんちんで
笑顔がいっぱいあふれだす
そんな学校へいこうね」
すてきな学校へいこうね
友だちいっぱい
夢いっぱいランラン
世界にはばたけ千代田の子
未来にはばたけ千代田の子

「いっばい明るさぶんちんで
やる気がいっぱいあふれだす
そんな学校へいこうね」
だのい学校へいこうね
友だちいっぱい
夢いっぱいかなえよう
世界にはばたけ千代田の子
未来にはばたけ千代田の子

幼稚園 夏休み特別保育

夏休みに入ると、各幼稚園では「水遊び」を中心とした夏季保育が実施されます。

これは、子供たちが、第一学期の生活から夏休みの生活へスムーズに入れるようにするためのものです。夏休みの終わりに実施して、第二学期への準備をする幼稚園もあります。

保育の内容は、幼稚園や通園する家庭の実情によって異なります。

暑い夏を健康に過ごすために、主とした活動は、水に親しみ慣れる遊びや体力づくり、水を使った創造的な遊びとなります。そして、友達との裸の付き合いを楽しみます。



▲やっと水遊びのできる天気になりました。
(和泉幼)

小学校 鎌倉臨海学園

小学校生活で、初めての宿泊を伴う行事です。

二泊三日の学園での生活を楽しく、有意義に過ごすために、七月に入ると、全員で準備にかかります。

班長・食事係・清掃係・レクリエーション係などの班単位の係を決め、役割を分担し、必要な品物の準備を進めます。

材木座海岸での水泳やボート遊び、砂浜での砂の芸術、すいか割りなども十分楽しめますが、夜の「お楽しみ会」も思い出深いものとなります。



(千代田麹町小)



▲新聞紙でつくるファッション (千代田麹町小)

自分達で企画し準備したゲームやショーを、係の司会で進行します。時には、先生方の出演もあります。

学級・学年の友達と一日中生活を共にして、相互の理解と友情が一段深まります。

中学校 保田臨海学園

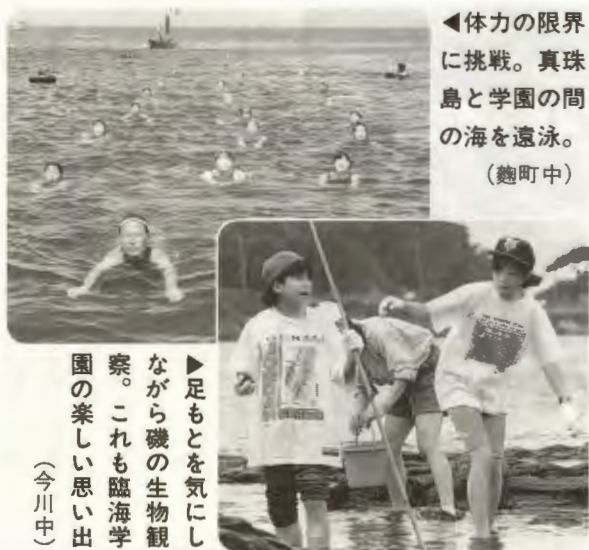
学園は、保田港の南、静かな海岸に面して建っています。近くには菱川師宣記念館があります。

区立中学校一年生の夏季施設として、三泊四日実施されます。水泳が中心です。特に、第三日に行われる遠泳が山場です。

四日間に、どの学校も五回海に入ることが計画されていますが、今年は天候が悪く、完全に実施できたのは一枚だけでした。

それでも、すいか割りや磯の生物観察、夜のレクリエーション、ビーチファイアーと、海辺の生活を十分楽しめました。

◀体力の限界に挑戦。真珠島と学園の間の海を遠泳。
(麹町中)



▶足もとを気にしながら磯の生物観察。これも臨海学園の楽しい思い出
(今川中)

小学校 箱根高原学校

富士五合目の御中道めぐり、氷穴や風穴の見学、箱根外輪山の山登り、富士サファリパークの見学等が、二泊三日の日程の中に組み込まれています。

乙女峠への山登り

五年 宮崎朝子

私は都会っ子で、山登りをしたり田舎へ行ったりしたことがないので、高原学校での乙女峠への山登りがとても心に残りました。

長尾峠へバスで行く途中、霧みだいな物で、だんだん外が見えなくなってきました。

いよいよ山登りです。初めは、すごく急な坂でした。そこを登るだけで疲れてしまったような気がしました。

最初の休憩場所です。「こまでは足ならしたよ。」と、先生が言ったので、「えー」と思いました。

次の道は険しく、段差がいっぱいあったので、息を切らしながら登りました。足元が滑りやすく、両足が離れていくようになってしまい、「まるでバレーだな。」と、先生に笑われてしまいました。

休憩の時の麦茶とあめの味は忘れられません。また、険しい道が続く、足もだんだん痛くなってきました。がんばって登って、とうとう乙女峠に着きました。左側を見たら、富士山がきれいに、はつきりと見えました。とてもうれしかったです。山登りは大変なんだなと思いました。でも、まだ、山登りをしたいなあと思いました。

(千代田九段小学校)

中学校 軽井沢高原学校

区立中学校の二年生が「軽井沢少年自然の家」を利用して、三泊四日の共同生活を行います。この夏季施設のメインは、浅間山周辺の山登りです。



(今川中)

コースは各学校によって異なりますが、最も一般的なコースは、高峰高原から水ノ塔、東麓ノ登山に登り、池の平に下るものです。

夏の日差しを体いっぱいを受けて登り、頂上へたどりついたときの涼風は格別です。様々な高山植物と接する楽しみもあります。

黒斑山に登る学校もあります。

更に、第三日に志賀高原や草津白根山をハイキングする学校もあります。

自然と十分親しむことができます。四日間です。



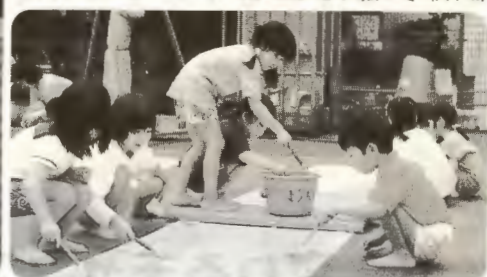
(麹町中)

雨天、保育室でのすいか割り(和泉幼)▶

▼親子で小麦粉粘土づくり(昌平幼)



▼大きなキャンパスにのびのびとお絵かき(昌平幼)



幼稚園によっては、親も参加して共に活動し、休み中の親子の触れ合いを豊かにする体験をする機会として、いろいろなところがあります。

今年は、梅雨明けが遅く、しかも涼しい日が続き、残念ながら予定した夏季保育ができなかった幼稚園も出てしまいました。

随想

きょういく

私の会社のN君が、社員教育や人事のことで毎日頭を悩ましていた。やる気のない幹部やダメ社員をどうすればいいの、悩みの種は尽きない。

ある日、彼が妙に明るい顔でやって来て面白い話をしてくれた。彼はグッピー（メダカのような熱帯魚）の愛好家で、家でいくつもの水槽でたくさんのグッピーを飼育している。グッピーは面白い魚で、胎生（卵でなく、子供を生む）である。熱帯魚の趣味はグッピーに始まり、グッピーに終わるという。N君は、永年グッピーとつきあっていてグッピーには詳しいので、熱帯魚屋さんが珍種をわけてもらいにくる程らしい。

毎日グッピーの世話をしているうちに、彼は妙な事に気がついた。水槽に餌を入れると、二つのグループに分かれるのである。一つは盛んに餌を食べるグループだが、もう一つの弱いグループは強いグループに追い散らされ、なかなか餌にありつけない。

かわいそうだということで、餌にありつけない群れを別の水槽に避難させた。今度はゆっくり餌を食べると

思っていたら、なんとその群れがまた二つのグループに分かれ、相変わらず餌にありつけないグループができてしまった。試みに、強いグループの水槽を調べてみると、これまた二つのグループに分かれて、やはり餌にありつけない群れができてしま

変わるチャンス

教育委員
藤井康男



った。何回分けても結果は同じで、常に強い方と弱い方に分かれてしまう。この方法をくり返すと一番強いヤツと一番弱いヤツが選び出されることになるはずだが、そうでもないらしい。実は、よく見るとグループは二つだけでなくそのまん中のグル

ープがあるらしく、この三つのグループの中でしょっちゅう入れかえが起っているので実際にはもっと複雑らしい。

彼は、ここから次のような結論を引き出した。全部優秀なグループも全部ダメなグループも実際には存在しない。ダメなグループも何かの理由で群れの存在のためには必要なのだろう。会社も同じで、ダメ社員も全体の中で何かの役に立っているのではないかということに気がついたら、急に気が楽になったと話してくれた。私は大変驚いて、N君にもっと細かくグッピーを観察し、「グッピー経営学」というような本を書けとそそのかしている。

人間も一生同じグループにいるわけではない。変わるチャンスは常にある。そういえば、私も小学校の低学年ではいじめられっ子で、やがてクラスがえてガキ大将になった想い出がある。人生あきらめてはいけな

ふじい やすお
千代田区教育委員
会 社 社 長

わがこころ

随想

編集後記

残暑もなく、台風が矢継ぎ早に襲来する九月、始業式に並ぶ子供達の顔色が、例年より白く見えました。冷夏、長雨の影響でしょう。

第十一号は夏休み特集号となりました。家族とのだんらん、学校（園）が主催する夏季施設への参加、自分が所属する地域の団体での行動など、子供達は様々な体験を積み、たくましく成長して第二学期を迎えています。

それにつけても、どこへ行っても、町会や青少年育成団体等の大人の方々が、様々な行事を企画して子供達を楽しませてくれている姿が見られました。「地域の人々にしっかり支えられている千代田の子供達は幸せだなあ」と、取材を通してつくづく感じました。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望を、お寄せください。

教育広報「かけはし」第十一号
平成5年9月24日発行
編集発行／千代田区教育委員会
〒102 千代田区九段南1-6-11
☎(03)6410151 内3114